

創生学部

創生学修プログラム

取得できる学位 ★学士（学術）

■ プログラムの概要

定められた一つの学問分野を軸に学んでいく従来の学部とは異なり、学生一人ひとりが自分で目標を設定し、課題発見・課題解決能力（リテラシー）育成を中核としたカリキュラムのなかで、専門領域を選んで学んでいく新しい学位プログラムである。専門領域は、新潟大学の人文・法・経済・理・工・農の6学部から、22の分野が提供され、学生はそれらの中から自分の関心等にあわせて1つの領域学修を選択する。本プログラムでは、学生主体の学修を確立することを主眼に、初年次から卒業時までグループ主体のゼミ／ラボ活動を通して、コミュニケーション能力や協働してプロジェクトを実行する企画力を育成する。

■ プログラムの人材育成目標（ディプロマポリシー）

本プログラムでは、多面的で複雑化した社会における課題を抽出し、その解決に必要な知識を獲得でき、分野の異なる他者と協働して、論理的思考と科学的根拠に基づいた課題解決ができる人材の育成を目指している。すなわち、この課題解決過程により自己の人材価値を生涯にわたって能動的に高めていくことができる人材、「自己創造型学修者」の育成を目標とする。

人材育成目標に対応して養成する以下の能力を修得し、本プログラムで定める修了要件を満たした者に、学士の学位を授与する。

- ・課題を発見し、その解決に向けて主体的に学修する態度・姿勢
- ・課題解決に必要な分析力・論理的思考力
- ・他者と協働できる自己表現力を有し、問題解決をコーディネートする能力
- ・専門領域の知識を有するとともに、多面的な視点から複数分野の知識を選択的に統合し、課題解決の場をデザインする能力

■ プログラムの到達目標（カリキュラムポリシー）

本プログラムが設定するディプロマ・ポリシーに対応して、学士課程全体を通じて学生が自ら到達目標を設定し学修を進めることを原則とする。設定される到達目標は学生によって異なるが、ディプロマ・ポリシーで示す「課題解決力」「協調性（コーディネート能力）」「汎用的能力」「態度・姿勢」は、目標設定における共通的な指針となる。

また、「領域学修科目（区分）」については、それぞれの領域学修パッケージを提供する主専攻プログラムが提示する目標を考慮して、選択した専門領域の学修に関する到達目標を設定する。

学生が1年次から到達目標を設定し、学修を進めるが、学修の進展に合わせて、担当教員からの助言のもとで到達目標の内容を改善する。

■ 求める学生像

- ・課題探求・解決に関心を持ち、将来のキャリアを自ら見つけることに熱意のある人
- ・特定分野にとらわれない幅広い領域に興味関心を有し、基礎的な学力のある人
- ・他者とのコミュニケーションを積極的に行い、自己表現できる人

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

ディプロマ・ポリシーに示す能力を養成するために、本プログラムでは以下のカリキュラム立案の基本方針とそれに対応する授業科目区分を定めた教育課程を編成している。

- ・リテラシー（複数の領域の見地から物事を「視る力」、異なる環境（状況）に「適応する力」、他者と協働するプロジェクト等を「コーディネートする力」）養成のための汎用的能力・課題解決力を涵養する授業科目を中核に据えている。そのために、課題把握・分析・実践（統合）のための「リテラシーコア・課題解決実践科目（区分）」を設けている。
- ・生涯にわたって学び続けることができる主体性とスキルを涵養するために学修に対する動機を高く維持する授業科目を初年次から配置している。そのために、学修への動機づけと能動性を高める「導入・転換教育科目（区分）」を設けている。
- ・多面的な視点から学問領域の知識を統合する上で、必要となる専門領域の知識・技能を修得するための領域別授業科目を2年次から4年次に配置している。そのために、専門領域の知識・理解を修得するための「領域学修科目（区分）」を設けている。
- ・学修成果の質保証を厳格に行い、学生自らの学士力を総括的に評価するための授業科目を4年次に配置している。そのために、学修成果と学位の質保証のための「学修成果総括科目（区分）」を設けている。

以上の授業科目（区分）を体系的に配置し、4年間を通じたゼミ・ラボワーク及び「リフレクションデザインⅠ～Ⅳ」を通じて、学生の主体的選択によって学修をデザインできるカリキュラムを編成している。